

令和6年広島県の職場における熱中症による死傷災害の発生状況

1 職場における熱中症による死傷者数の推移（平成26年～令和6年）

平成26年～令和6年の職場における熱中症による死亡者及び休業4日以上の上疾病者数（以下合わせて「死傷者数」という。）をみると最少は3人、最多は32人となっており、令和6年は21人となっている。

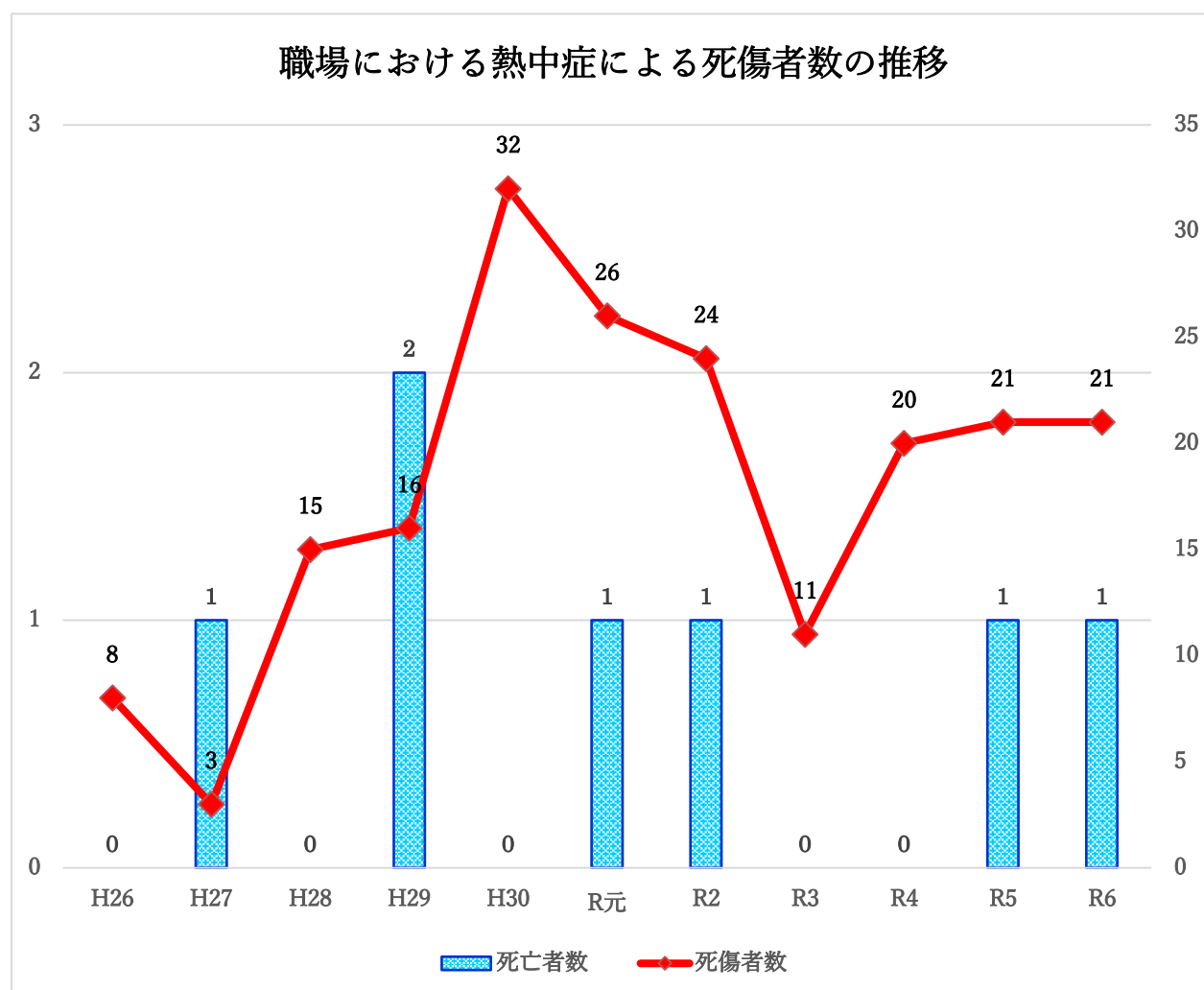
令和6年の死傷者数は、対前年同期で1人と同数となっている。

死亡災害は、1人土木工事業業で発生している。

➤ 職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
8	3	15	16	32	26	24	11	20	21	21
(0)	(1)	(0)	(2)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)

※ （ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



2 業種別発生状況（平成26年～令和6年）

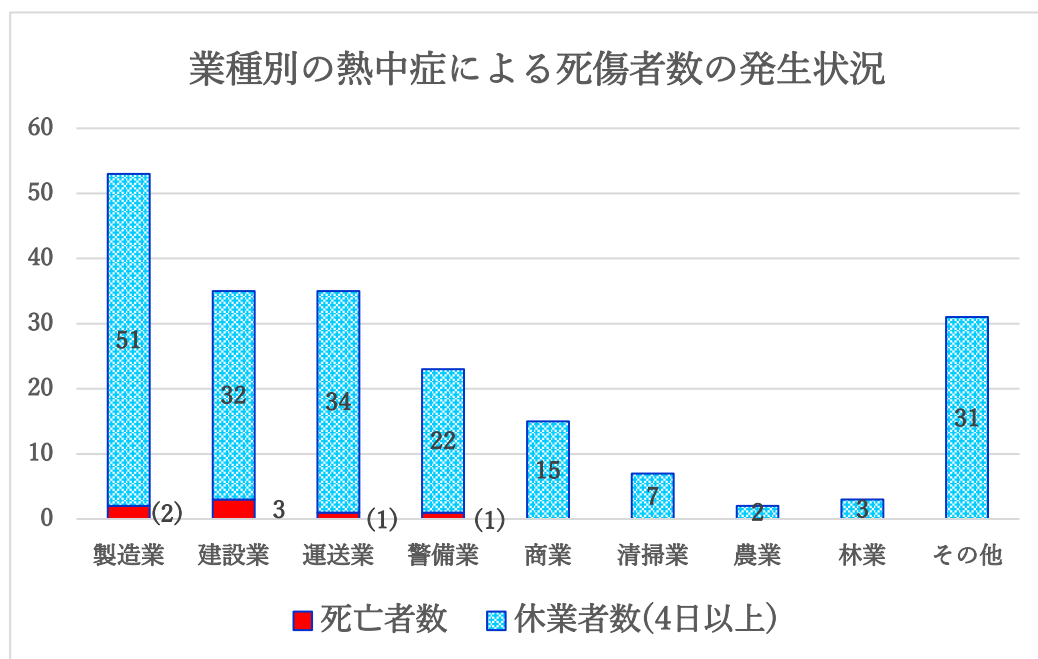
平成26年～令和6年の業種別の熱中症による死傷者数をみると、建設業が最も多く、次いで運送業で多く発生している。これらの2業種で全体の4割以上を占めているが、近年はその他の業種においても相当数を占めている。

令和6年は、運送業が最多で6人、その他が4人、商業が3人、製造業・建設業・清掃業がそれぞれ2人であった。死亡災害は1件発生した。

➤ 熱中症による死傷者数の業種別の状況（人）

業種	年	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	合計
建設業		3 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (2)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (0)	2 (1)	32 (3)
製造業		3 (0)	0 (0)	5 (0)	7 (0)	7 (0)	9 (1)	8 (1)	2 (0)	1 (0)	7 (0)	2 (0)	51 (2)
運送業		0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	8 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (1)	6 (0)	34 (1)
警備業		0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	22 (1)
商業		1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	15 (0)
清掃業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	7 (0)
農業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)
林業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)
その他		1 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	7 (0)	4 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	1 (0)	4 (0)	31 (0)
合計		8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	21 (1)	197 (7)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



3 月・時間帯別発生状況（平成26年～令和6年）

（1） 月別発生状況

平成26年～令和6年の月別の熱中症による死傷者数をみると、全体の約8割以上が7月及び8月に発生しており、死亡災害も7月、8月に集中している。

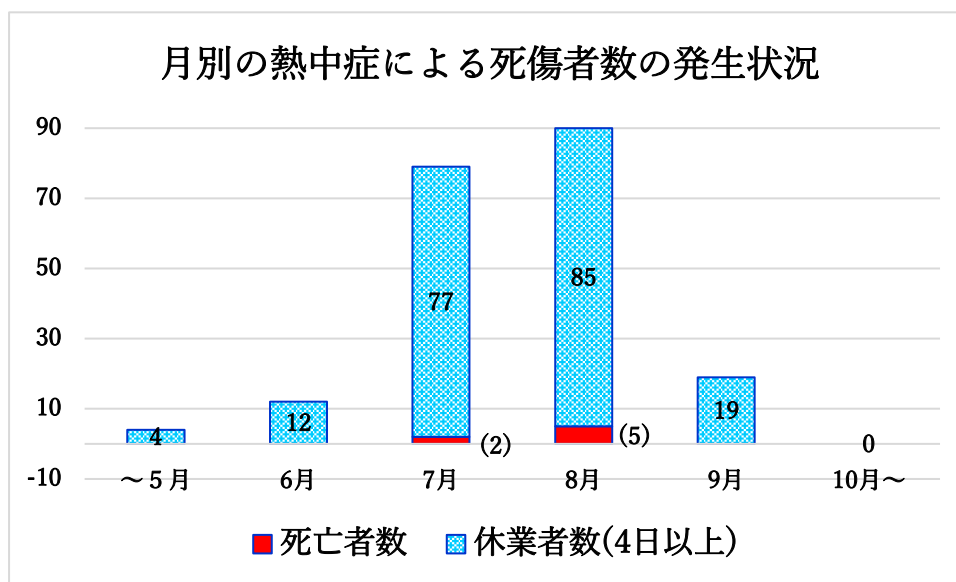
令和6年も同様に7月、8月で多く発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の月別の状況

年 月別	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	合 計
～5月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)
6月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	12 (0)
7月	5 (0)	1 (0)	10 (0)	7 (1)	18 (0)	9 (1)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	8 (0)	7 (0)	77 (2)
8月	3 (0)	2 (1)	4 (0)	8 (1)	11 (0)	8 (0)	18 (1)	4 (0)	9 (0)	10 (1)	8 (1)	85 (5)
9月	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	19 (0)
10月～	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	21 (1)	197 (7)

※ 「～5月」は1月から5月まで、「10月～」は10月から12月までの合計。

※ ()内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



(2) 時間帯別発生状況（平成26年～令和6年）

平成26年～令和6年の時間帯別の熱中症による死傷者数をみると、14時台をピークに17時台まで高止まりの状態が発生している。作業終了後の帰宅中又は帰宅後に体調が悪化し、夜間病院へ搬送されるケースも散見される。

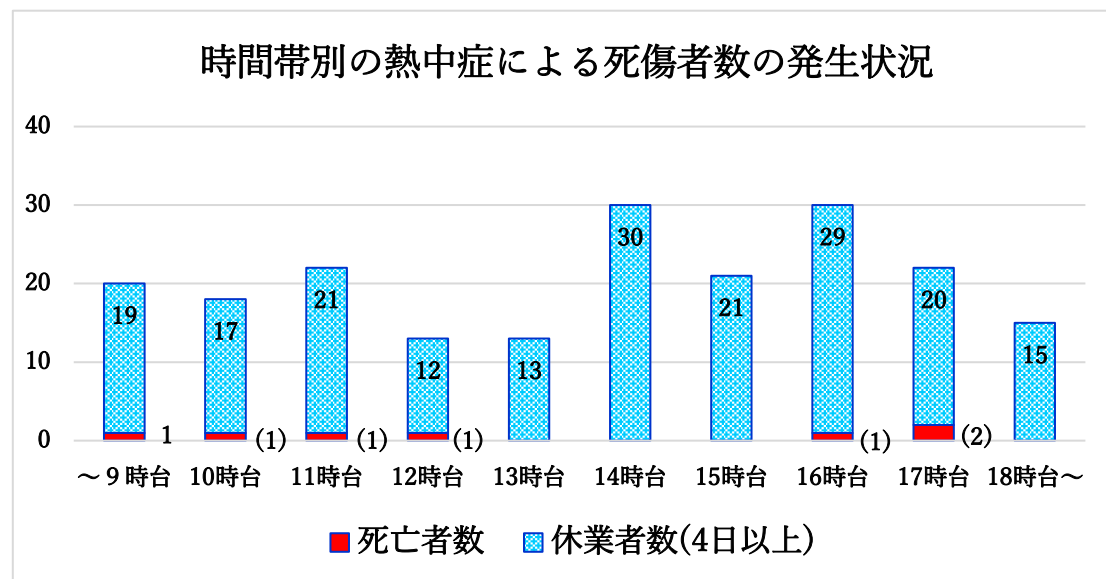
令和6年も、13～17時台（午後）で多く発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の時間帯別の状況

年 時間帯別	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	合 計
～9時台	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (1)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	19 (1)
10時台	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	17 (1)
11時台	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (1)	3 (0)	21 (1)
12時台	1 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	12 (1)
13時台	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)
14時台	1 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	7 (0)	5 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	30 (0)
15時台	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	21 (0)
16時台	1 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	3 (0)	3 (1)	29 (1)
17時台	0 (0)	0 (0)	2 (0)	4 (2)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	20 (2)
18時台～	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	15 (0)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	21 (1)	197 (7)

※ 「～9時台」は0時から9時台まで、「18時台～」は18時から23時台までの合計。

※ ()内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



4 経験年数別発生状況（平成26年～令和6年）

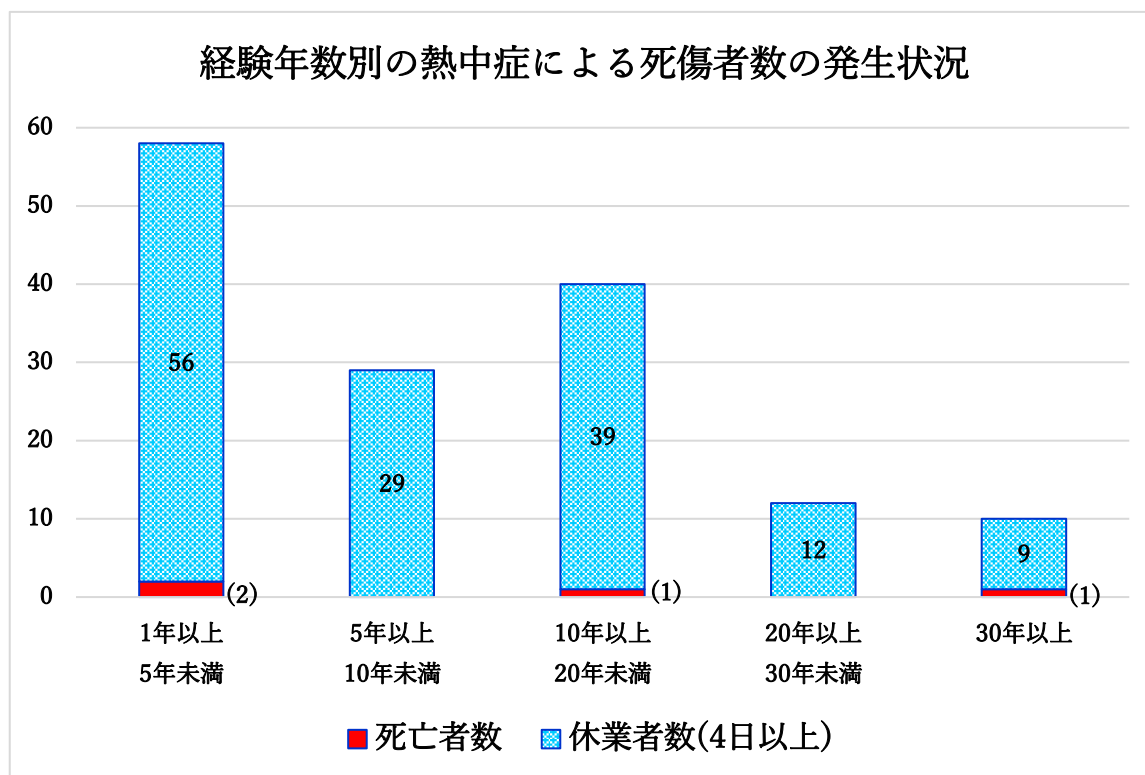
平成26年～令和6年の経験年数別の死傷者数をみると、1年未満及び1年以上5年未満が最多である。経験年数が5年未満までの死傷者が全体の5割以上となっており、熱中症予防の教育・研修の実施が重要である。

令和6年は、1年以上5年未満が最多となっている。

▶ 熱中症による死傷者数の経験年数別の状況（人）

年 時間帯別	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	合 計
1年未満	2 (0)	2 (1)	4 (0)	5 (1)	12 (0)	7 (0)	3 (0)	3 (0)	5 (0)	6 (1)	3 (0)	52 (3)
1年以上 5年未満	1 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (1)	10 (0)	7 (0)	7 (0)	6 (0)	5 (0)	5 (0)	7 (1)	56 (2)
5年以上 10年未満	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (0)	6 (0)	1 (0)	6 (0)	0 (0)	2 (0)	29 (0)
10年以上 20年未満	0 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (0)	4 (0)	3 (0)	7 (1)	1 (0)	2 (0)	6 (0)	5 (0)	39 (1)
20年以上 30年未満	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	12 (0)
30年以上	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	9 (1)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	21 (1)	197 (7)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



5 年齢別発生状況（平成26年～令和6年）

平成26年～令和6年の年齢別の熱中症による死傷者数をみると、すべての年代において熱中症が発生しているが、最多は50代、次いで40代の発生が多い。また、60代以上の死傷者数も全体の20%あまりを占めていることから、高年齢労働者への配慮が必要である。

令和6年も多くの年代で熱中症が発生し、50代が最多となっている。

▶ 熱中症による死傷者数の年齢別の状況（人）

年 年代別	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	合計
10代	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
20代	1 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (0)	38 (1)
30代	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	21 (0)
40代	3 (0)	0 (0)	2 (0)	9 (0)	5 (0)	7 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	2 (1)	4 (0)	42 (1)
50代	1 (0)	1 (1)	3 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	7 (0)	1 (0)	3 (0)	7 (0)	6 (1)	45 (3)
60代	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (1)	3 (0)	7 (0)	5 (0)	4 (0)	36 (1)
70代以上	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	14 (1)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	21 (1)	197 (7)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。

